

今回は鼠径部の痛みについて
お話しをしていきたいと思います。

先生は、鼠径部の痛みを訴えられる
患者さんに、どのようなアプローチを
されていますか？

鼠径部の痛みとなると
股関節屈筋群や大腿直筋など

鼠径部前面の筋に対して
アプローチをされているのではないのでしょうか。

しかしながら、そういった鼠径部前面に
アプローチをしても、

思うような効果が出ない
なんて事もあるのではないのでしょうか。

そんな時に考えてほしい筋肉が
内転筋群になります。

内転筋群と言うと、ひと括りに考えてしまいがち
なのですが、股関節に対する作用が違うので
別々に見ていくことが大事になります。

1度、解剖書などを見返していただきたいのですが
内転筋群の付着部を見てみると

大内転筋なんかは坐骨結節のところに
付着していますので
（側面から見ると、後頭の部分というのは
かなり大腿骨より後面に位置している）

大内転筋の後部線維は
伸展のみのとなるわけなんですね。

さらに、走行で考えると
ハムストリングと隣合っているような
状態ですので

ハムストリングとと思っていただいても良いくらい
股関節の伸展に関わってきます。

反対に、恥骨あたりに付いているような
恥骨筋・長内転筋・短内転筋

といったところに関しては
大腿より前方に向かって付いていますので
股関節屈曲の働きを持っているんですね。

内転筋群の中でも
特に損傷が多いと言われているのは
恥骨筋と言われています。

ですので、鼠径部の痛みに対しては
恥骨筋の検査をやっていただいて
問題がないかどうかを確認してみてください。

内転筋群と言っても、股関節の内転だけでなく
股関節の全ての運動面でトルクを発生させます。

こういった解剖をしっかり理解しておく事によって
治療の仕方や検査の仕方が変わってきますので

鼠径部の痛みに関して
恥骨筋を見るようにしてみてもいかがでしょうか。